

鎌倉市のスマートシティって何？

背景

①成熟社会

- ・ニーズの多様化、複雑化、高度化

②少子高齢化

- ・生産人口の減少
(女性等の社会進出)
- ・コミュニティの低下
- ・認知症の拡大
- ・社会保障費（医療・介護・福祉）増大

③コロナ禍

- ・ニューノーマルの定着
- ・デジタル化の加速
- ・一極集中から地域分散社会へ

④格差拡大

- ・教育
- ・経済
- ・情報
- ・ジェンダー

⑤災害激甚化

⑥循環型社会

- ・脱炭素（再生エネルギー100%）
- ・食品ロス削減
- ・プラごみゼロ

⑦働く場所・働き方

【市民・企業・大学等と連携】

データ・テクノロジーの利活用

（個別化・効率化）
官民サービスの高度化

市民とまちのエンパワーメント

（つながり・多様性・課題をみんなで解決）
次世代コミュニティの形成

誰もが生涯にわたって自分らしく安心して暮らせる共生社会

今、どこまで進んでいるの？実は・・・



令和4年度からリーディングプロジェクト開始(予定)

前半

産官学民連携のプラットフォームの構築

データ連携基盤の導入

後半

先端的サービスの実証事業スタート

今回、次のことを皆さんと一緒にしていきたいと思います

1 鎌倉市スマートシティ構想（案）を一緒につくる

- （１）基本理念・基本原則（参加者が守る基本的なルール）を考える
- （２）令和４年度プロジェクトのテーマ（リーディング・プロジェクト）を考える

2 スマートシティの推進体制を一緒に考える

- （１）市民が産官学民連携のプロジェクトに参加できる場や仕組みを考える
 - ※「課題が見える化し、みんなで解決する」を具体化

(参考) 取組みを支える基盤

1 産官学民連携のプラットフォームの構築

市民起点の先端サービスの創発と都市マネジメント（まちづくり）、市民参加によるオープンイノベーションや実証・実装の推進

2 分野横断的な連携を可能にするデータ連携基盤の導入

データの集積、統合・分析、利活用による課題の見える化やEBPMの推進等

3 成長指標（KGI）の設定

新たな指標として「暮らしやすさ」と「Well-Being（幸福度）」を検討

(参考) 推進体制 (案)

鎌倉市スマートシティ庁内検討委員会がハブとなって、市民のQOLやまちの価値向上につながるサービス提案を担う鎌倉市スマートシティ官民研究会と、まちづくりを担う市民・団体等との連携を推進する。

